

第9回 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 廃炉等技術委員会 議事要旨

日 時 平成 27 年 4 月 16 日 15:00～18:00

場 所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF) 第二大会議室

1. 「東京電力(株)福島第一原子力発電所の廃炉のための技術戦略プラン 2015」(以下、戦略プラン)について

NDF 事務局より戦略プランについて、前回の廃炉等技術委員会での意見を踏まえた修正のほか、修辭上の修正を行った旨の説明があった。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

- 戦略プランの取りまとめが進捗し、福島第一原子力発電所でも各種作業の進捗が見られている。特に原子炉格納容器(PCV)内部調査のロボットの成果も出ており、今後はこれら最新の情報も取りまとめをお願いします。
- 放射性廃棄物の処理と処分に関わる基本的方針を今後検討する考え方の記述に、バランスを考慮するとか、それを考えてプロジェクトマネジメントを行うとか、提示した基本的考え方を引き戻す事あるべしとネガティブにもとれる文章があるが、内容も含めて再検討をお願いしたい。

修正案については委員長一任とし、取りまとめ後に公表することとした。

2. 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 廃炉支援部門 業務方針について

NDF 事務局より下記の通り説明があった。

- 今後 NDF として戦略プランを踏まえて福島第一原子力発電所全体のリスク低減を行うべく、様々な検討に着手するつもりである。これに当たっての基本方針についてご意見をいただきたい。
- 主要な課題である「燃料デブリ取り出し」、「廃棄物対策」を詳細化し、解決策の検討にあたる小集団を形成して作業を行う。各集団では実施機関も含めた他機関とも密に連携を取り、必要に応じて専門家や他分野有識者からも新たな知見や叡智を結集し、解決策を取りまとめる。その内容については当委員会等に随時報告を行っていく。
- 検討に当たっては、国内外の事例を学ぶとともに、実際の現場や主要人物、機関との連携を重要視していく。成果についての国際的な情報発信の場を設けていくことも検討している。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

- 「総合的」なリスク管理を適切に行うためには、各課題に対する集団を束ねるマネージメントにも力を入れる必要がある。NDF は局所最適となってしまうように、俯瞰的に見ることの重要性を意識して検討に臨むこと。

- 社会科学的分野については、有識者の意見が批判的なものになりがちで、外部に協力を求めることが困難かもしれないが、異なる分野との対話こそが前進の始まりである。ぜひ多くの分野の有識者との対話を始めていただきたい。
- 汚染水対策は、燃料デブリ取り出しに関わる課題とも深くかかわるので、現状すでにある他の委員会との役割分担をこの点からも適切に行い、効果的な取り組みがなされるように進めていただきたい。
- 体制についても、まだまだ NDF の人数も少ないと感じるところはある。現場は日々変わっているが、東京電力、重電メーカー・ゼネコン等からの情報をタイムリーにうまく取り入れられるような体制強化・増員を検討されるよう望む。
- サイトの中や各号機の建屋の除染については、使用済燃料プールの燃料取り出しだけでなくデブリ取り出しにもかかわるため、今後小集団での活発な議論を期待する。

3. 福島第一原子力発電所の状況について

東京電力より、リスク総点検・情報公開、及び PCV 内部調査についての報告があった。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

- 今後公表される整理された資料をぜひ見せていただきたい。特に住民目線でのチェックをお願いしたい。あまりに小さいリスクへの対策に奔走するあまり、最終的に大きなリスクをとらないといけなような事態とならぬよう、その影響度を伝える努力をお願いしたい。
- 情報公開について、特に、もともと設置されていたリスクコミュニケーターを強化・活用し、必要不可欠な地元への説明や意見を聞くこと、また第三者の意見を聞くことを望む。
- 現在行われているロボットによる PCV 内部調査(B1 調査)の、時計回りの調査が順調のようで、ロボットの通り道も反時計回り側に比べてきれいな状況が分かった。今後、時計回り用のロボットを使って、反時計回りのロボットの切断されたケーブルの放置状態を見ることを試みる等、現場の状況に合わせ臨機応変な判断ができる体制があるとよいと考える。
- 国の補助金で行われる事業についても、今回の成功例をもとに、東京電力の現場の意見・状況も踏まえて評価し、メリハリのきいた事業の継続・縮小を示していただきたい。
- 残念ながら止まってしまったロボットの失敗から学ぶ、失敗学ということを実践していただきたい。

4. その他議題

NDF 事務局等より、以下の事項等について説明があった。

- 中長期ロードマップ
- 平成 26 年度「年次報告書」
- NDF 廃炉支援部門の最近の活動
- 今後の廃炉等技術委員会等のスケジュール

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

○作業員の被ばく総線量について「5年で100mSvの限度」の「5年」の定義について整理いただきたい。来年3月で震災から5年となるが、作業者ごとに起算日の違いがあるのか等共有しておきたいと思う。

以 上